



デジタルで育てる「心をベースにした表現力」

ドラマで何を学ぶ

本校では1997年に姉妹校提携を結んだイギリスのHOLY CROSS校とインターネットとその年からテレビ会議を使った国際交流を行っています。この交流は生徒のミュージック・ドラマのコラボレーションを通し、両校の生徒が互いに相手の表現と自分たちの考えた表現から相違点及び共通点を発見し、他者理解力及び自己認識力を高めるための新たな視点を持つことを目的としています。平成14年度より文部科学省から研究開発校の指定を受け、ドラマで表現する顔の表情、声の表情、体の表情すなわちノンバーバルな部分の表現をするためには、感情が伝わるように表情を作るのではなく、「**本当にその気持ちになれる**」「**本当にイメージが描ける**」「**本当に相手を感じ取れる**」ことが大切なのです。2002年より文科省から研究開発学校の指定を受け、教科としてのドラマ科にとりこんでいます。

Premiere6.5で育てる表情表現力

本校ドラマ科は、1年生が必修、2,3年生が選択になっています。1年生では主に「感覚を磨く」「イメージを描き、体や表情で表現する」「いろいろな気持ちになる」といった演劇教育的な学習をします。そして、2,3年生の選択ドラマでは、そこに、観客を意識した要素つまり、俳優教育的な学習が加わってきます。最終的に3年生で創作ドラマを発表するのですが、本校では施設の関係でビデオ作品に仕上げます。Premiere6.5で、編集し、一本の作品にするのですが、シナリオ作りの時から「**人と人との関わり**」や「**気持ちの変化**」を意識させ、撮影および編集の時に、それらが十分表現されているかに注目させます。場面の変わり目でどのトランジションを使うかも、前後の場面における登場人物の関わりや気持ちの変化を考えて決めさせていきます。このようにビデオ作品作りは自分の表現について、演技のスキルもさることながら、自分が作品全体にどのようなイメージを持ち、その中で「**気持ちの動きに基づいた表現**」ができているかどうかを評価しながら進めていくことができます。まさに「**デジタルで育てる人の心をベースにした表現力**」です。

時の流れと、モヤモヤとした気持ち【ディゾルブ】



騒々しさから緊張へ、不安が現実となる【ページ送り】



不安なまま、楽しい雰囲気へ、【ズームイン】

